

#### 〈第4報告〉

### 日本人の集団意識（日本の漫画を通して見た）

李 政炫

私の論文のテーマは「日本人の集団意識」ということで、「漫画を通して見た」という括弧の中にこういう文を入れたのは、漫画というコンテンツが、日本では他の国よりも漫画の社会的地位が重要な部分を占めていると思ったからです。実はこれは自分の個人的な興味から始めたものですが、漫画という文化のコンテンツにおいて、日本では、小さい頃から漫画雑誌が容易に、手軽に買って見られると思いましたが、韓国でも成長期の時に漫画に接することが多く、考え方に影響を及ぼす存在かと思っただけです。そうすれば逆に日本人も成長期の時に、いろんな漫画を通して考え方に影響を受けたりするのじゃないかなと思ひ、それがまた考え方に影響を受けて、また漫画を読んで、と面白いものを読んで、無意識的に教育されていて、それが拡大再生産になっていると思い、こういうテーマになりました。

日本人論というテーマは、皆さんもよくご存じのように、ルースベネディクトの「菊と刀」という有名な本から、数多く研究されてきましたが、その研究の中に大きな流れがあると思ひました。日本の経済の成長とともに、経済が盛んなときは、日本人の集団意識というものがポジティブな肯定的なものとして認識され、経済が不況の時は、その集団意識が悪い意味で、悪い影響を及ぼして、そのような結果になったとか、色々な研究がありましたが、韓国では、日本人論についての研究が本当にものすごく多いので、韓国で出版された本を中心に大雑把にまとめてみました。

ルースベネディクトの「菊と刀」でも、恥の文化とか「各々其ノ所ヲ得」を始めとして、中根千枝の「縦の構造」という社会中心主義として、個人の主体性が表現されるとか、日本人の人間関係は常に主従関係に基づいているとか、こういう研究が本の形で出てきました。この中根千枝も「縦の構造」の一番有名な研究の一つは年功序列という皆さんもよく知っていることと思ひます。日本人の特性・習性として、ここまでの研究が批判しているのは、西洋人

の目から見たということや、やはり「恥の文化」についてです。ルースベネディクトの「恥の文化」も、西洋人は「罪の文化」、日本人は「恥の文化」ということは、何か見下ろしているイメージがある、西洋人特殊の東洋人を見下ろしている目線が見えるんじゃないかという批判もされているし、中根千枝の「縦の構造」も個人の主体が無くて、社会中心、例えば、ある団体の利益のために一人の個人が犠牲されてもいいと批判されていますけれど、それ以降浜口恵旬や浜口以外にもこのような主張をしている人は多いですが、間人主義ということがありまして、これは日本人論の中で有名と言われる集団意識は、ここまでの研究のように集団のために個人の犠牲が許されるという形ではなく、逆に個人の利益のために集団が使われるという主張の研究で、この研究が出された時期には大体そのような研究の風潮がありました。

今でもこの間人主義が尊敬されていて、今の日本人論の本や研究をみますと、日本人の集団意識は個人を犠牲して集団のために何かをする形ではなく、個人の利益のために集団を作っていくという形だという主張が主に研究されています。そして今は、日本人の特殊性自体の否定もありまして、集団意識もそれ自体を否定する形の研究もあります。

私が日本人の集団意識を日本の漫画を通して見てみたいと思ひ、私が選んだ研究の方法は、より多くの漫画の本を読んで、その中で日本人の集団意識についての内容があればそれを取り出して研究としての形にまとめるというものです。まだ勉強している段階で中途半端な気がしますが、私が今までに、研究として読んだ漫画の本は400冊位です。まだまだ少なくとも1000冊位は読まなければならないと思っています。

私がこれから研究していきたいことは、今までの日本人論が研究してきた間人主義とは変わっている日本人、現代に生きている日本人は、どういう考え方で集団意識を持っているのかということです。変わっている日本人というのは、会社人間の脱却、年

功序列の崩壊で能力を優先することが漫画の中で見えることを取り出して、フリーターが増加したり、私生活を大切に思う若い世代ということにまとめてみます。それから、個人主義の影響です。これは西洋の考え方や主義かもしれませんが、なるべく西洋人の目線から見た研究を参考にしないように頑張ります。心理学の分野でも日本人論という研究がありましたが、参考だけにして、なるべく漫画の中から取り出そうと思っています。そこで個人主義の影響として、簡単に英雄のような存在を通じて表われる欲望など、これは例えば、ある堅い集団の中に

一人の英雄のような個性の強い人、能力のある人が、その古い日本の集団意識から悪い慣習を破る過程を描いているものには、その欲望が表れていると思います。

現在中心による社会的な集団意識の減少、私生活での仲間との関係は親密になり、それとは別にゲームやインターネット、いじめなどによる引きこもりなど、これは韓国も社会問題として同じように抱えている問題だと思います。そのような研究をしたいと思っています。

#### ◇ 質疑応答

**フロアー（お茶）：**漫画を色々お読みになられているようですが、主なタイトルなどご紹介下さい。今日ここに報告された、このような印象をお持ちになった漫画のタイトルとかを教えてください。

**報告者：**特にこれだ、という漫画があるというよりも、色々な漫画の中に、ほんのちょっとした形で表われていますので、ある日は10冊位読んでも出てこない日もあるし、2、3冊の中でも、パーっと出てくる日もあるし。

**フロアー（お茶）：**出てきたものを、なかなかこれは顕著だなと思ったものがあつたら、ちょっとご紹介下さい。

**報告者：**日本人の集団意識が一番わかりやすく見える所は、やはり、こういう人間関係が堅くある会社漫画が代表的で、島・・・

**フロアー（お茶）：**「島耕作」。

**報告者：**はい、それだと一番わかりやすいかなと思います。勿論日常生活とは違って、会社という特別な場であるという特色があつて、やはり事件がありますけれど。

**フロアー（お茶）：**「島耕作」などは、私もわからないですね。どの世代の人が読んでいるものなんですかね？男性層で。

**フロアー（お茶）：**話が会社の話なので、そういう人たち

が読みます。若い子はあまり読まない。

**フロアー（お茶）：**掲載されている雑誌が、そういう世代によって読まれている場合が多いと思うんですね。ビッグコミックなんていうのは30代から40代、50代が中心だと思うんですけど。そのくらいの世代が。

**フロアー（お茶）：**だから「島耕作」が描かれている雑誌を読んでいる方の年代が・・・

**報告者：**一番有名な社会人としての主人公の漫画が「島耕作」で、日本のもとの題名が何だかわかりませんけれど、いろいろ会社のOLものとかもありますけれど。

**フロアー（お茶）：**漫画の場合は世代によって読まれる漫画が随分違う、男性の場合と女性の場合もまたかなり違うし。こういう読者の方の側から、どういう読者によって読まれてるのかということを想定して、それで資料に使うようにしないと。全く違う読者を対象にした二つの漫画を同じような資料として扱うことは、これはちょっと資料の扱い方としては問題かなと思いますけど。そこまで注意深く漫画を素材として扱うことはかなり大変な事じゃないかなという気がします。

**司会：**はい、ありがとうございます。おつかれさまでした。